

第51号 2007.11.30

高知県立幡多けんみん病院発行

〒788-0785

宿毛市山奈町芳奈3番地1

TEL (0880)66-2222(代)

<http://www.pref.kochi.jp/~hata>

病院ニュース

News Letter

高齢者の 交通・転落事故予防

整形外科 小松誠

当院の整形外科では手術が必要で入院されている患者さんが大半を占めます。年をとるにつれて少しずつ悪くなるような病気（たとえば頸髄症や腰部脊柱管狭窄症、変形性関節症など）、急に悪くなる病気には椎間板ヘルニア、感染症や外傷（ケガ）などがあります。今回いろいろな病気の中である日突然おそってくる外傷（ケガ）に注目してみたいと思います。

この外傷の中で最も多いのが高齢者のケガです。ちょっとしたまじりたり、ベッドからすべり落ちたりした拍子に受傷します。前に転んで手をつくると手首の骨折、横に転んでお腰をつくると大腿骨の骨折、しりもちをついて脊椎の圧迫骨折が起こるわけです。この3つの骨折が大半です。予防はできるか？というところ、転倒自体はなかなか避けられませんが、いずれも骨粗鬆症が基盤に

あるためその治療も重要です。子供のケガ、働き盛りの方の仕事でのケガもなかなか予防が難しいです。

ここからが本題です。ひよっとしたら避けられたかも知れないケガ、例えば高所からの転落事故、交通事故などです。致命的なケガはいうまでもありませんが、大きな後遺症を残すようなケガの確率が高いわけです。重度の後遺症が残れば肉体的、精神的、経済的負担が突然患者様はもちろん家族、また地域社会にのしかかってくるわけです。みなさん気を付けられていると思いますが、日没後の車の運転、高所での作業、急斜面での食物採取など、少しの気のゆるみや、これくらいはできるといったある種の自信が大きな事故につながっています。

健康で自立した高齢者の多い幡多地域ならではのかも知れません。個人の注意はもちろんですが、家族、地域ぐるみで少しでも不幸な事故を未然に防げればと思います。

しかし高齢者の一人暮らしや高齢夫婦のみの世帯では危険を

承知の上でやらなければいけないこともあるでしょうし、交通の便が悪く車なしでは生活ができないような方も多いでしょう。自治体を含めた地域ぐるみで取り組みも必要なものでしょうが、まずはみなさんもう一度、自分のこと、ご両親のこと、おじいさん、おばあさんのことを思い浮かべてみてください。



医療連携フォーラム

教育研修委員会 上岡明日香

11月17日（土）、当院において「第5回医療連携フォーラム」が開催されました。

医療連携フォーラムは、幡多地域の住民の方々に安心していただける医療を提供していくために、医療・介護・福祉・行政の連携を深めることを目的に実

施しており、毎年、病院や施設の方から日頃の取り組みを発表してもらっています。

今回も院内外から108名の方に参加いただき、院外から「竹本病院の取り組み」「妄想と幻覚に悩まされる高齢者への関わり」「高知県幡多圏域ケア整備構想について」の三題、院内から「幡多地域での脳卒中地域連携クリニカルパス導入の試み」「幡多けんみん病院における医療連携」の二題が発表されました。



土佐清水市にある居宅介護支援事業所の介護支援専門員の方から、幻覚性障害等と診断されている高齢者に対して何度も継続して訪問、対話を重ねながら利用者の生活を支援しておられる様子を発表していただき、その関わりの経過から、非常に責任のある困難な仕事であることが伝わってきました。

脳卒中地域連携クリニカルパ

スの導入に関する発表では、脳卒中について一つの病院で治療するのではなく、急性期・回復期・慢性期と各々の役割に特化した医療機関でスムーズな連携ができるように地域連携パスを作成したこと、地域連携パスを使用することで、切れ目ない医療を提供できるだけでなく、情報を共有、蓄積することにより患者さんのその後の経過等について知ることにも可能になること、今後は地域連携パスの改定や介護施設等を含めた地域連携を進めていきたいことなどを述べられていました。

「高齢化が進む中で、マンパワーの確保ができるのか」「けんみん病院の負担を軽減できるよう、当院でも取り組んで行きたい」「色々な制度について学び、地域の方のために働きたい」など、参加者の声も聞くことができ、今回のフォーラムを通じて、多くの、そして様々な職種の方々が携わり、幡多地域の医療を支えているのだと実感しました。

来年度も引き続き医療連携フォーラムの開催が予定されています。

この会が、幡多地域の医療連

携をより良くしていくための、一つのきっかけになれば、と思います。

クリスマス★コンサート のお知らせ

12月20日（木）夜7時より、2階放射線受付前にて、クリスマスコンサートを開催します。

今年も中村交響楽団の皆さんにお越しいただき、演奏してもらうことになっています。

演奏曲は、当日までのお楽しみとなりますが、定番のクリスマスソングから思わず懐かしくなったり、お子様に喜ばれる音楽などバラエティに富んだ内容になることと思います。

毎年、入院中の患者さんにもたくさん聞きに来てもらっています。中には、ベッドに寝たままでの方や車イスの方もいらっしゃると思いますので、会場ではできるだけスムーズにお迎え、誘導できるように準備を進めます。もちろん、院外からもご自由に参加できますので、お誘いあわせの上、

皆さんでお越しくください。

一夜限りのコンサートですが、やさしい音楽に包まれた、素敵な時間を過ごしてみませんか。たくさんのご参加を、心からお待ちしています。



からだにやさしい食生活

栄養科

冬の冷たい北風に触れて家に帰り着くと、温かいものが食べたくなくなります。湯気がたつ食事だからだが温まると心もホッとするものです。

師走といわれる12月には何かと忙しくなりがちです。

こんなときこそ、料理に少し手をかけてみましょう。

とはいっても、スープや鍋物は食材を下ごしらえすれば、火にかけるだけでできあがりです。

家族や友達と話をしている間にできれば楽しい食卓の始まりです。

【クリームシチュー】

☆材料☆(2人分)

鶏ひき肉 150g
たまねぎ(中) 1コ
しめじ 1房
だいこん 3個
にんじん(中) 1本
ブロッコリー 1/4コ
カリフラワー 1/4コ
バター 大きじ2
小麦粉 大きじ2
生クリーム 40cc

☆つくり方☆

①たまねぎはくし型に切り、しめじは根もとを落とす。だいこん、にんじんは一口大で同じ大きさに切る。ブロッコリーとカリフラワーは小房に分けて塩少々を加えた熱湯でゆでる。

②ポウルに鶏ひき肉と塩・こしょう各少々、水大きじ2を入れ、なめらかになるまで練る。

③鍋に水カップ500ccと塩少々を入れて火にかけ、煮立ったら②のタネを丸めて落とされる。

④煮立ったらだいこん、にんじん、しめじを加え、10分間ほど煮る。

⑤たまねぎ、カリフラワーを加えて5分間煮る。

⑥別の鍋にバターを溶かし、小麦粉を焦がさないように弱めの中火でいため、⑤の煮汁を加え、とろみがつくまで泡たて器で混ぜながら煮立てる。生クリームを加えて混ぜたら⑤のなべにブロッコリーとともに戻し入れる。4〜5分煮て味を調える。



☆今回はひき肉を使って肉だんごにしました。

【おすすめメニュー】

フランスパン、グリーンサラダ、かぼちゃのプリン

LUNCH★BOX

作者は、单身女性。ソーシヤルワーカーとして日々忙しく働

いている彼女ですが、家に帰ると料理もしっかりするそうです。お弁当に入っているかぼちゃの煮込みも、鶏肉の唐揚げも、全て手作りとの事！(同じく一人暮らしの編集スタッフ、頭が下がります…。)

毎日院内を巡っては、患者さんが何を求めているか、どうする事が患者さんにとって一番良いか、彼女は、常に『誰か』と真剣に、そしてやさしく向き合っています。

そんな彼女が作るお弁当は、まさに『頑張る源』に見えました。当り前に正しい食生活を送っている彼女は、今日も力強く、やわらかい笑顔で『誰か』と向き合っています。



七・五・三

編集スタッフ



十一月十五日は「七五三」。三歳、五歳、七歳の子どもの成長を祝い、宮参りをする日です。平安時代頃から公家や武家社会の通過儀礼として行われていた、「髪置」「かみおき」「袴着」「はかまぎ」「帯解」「おびとぎ」がそれぞれ三歳、五歳、七歳であったため「七五三」と呼ばれるようになり盛んになりました。

「髪置」とは、昔、子どもは髪を剃っているのが普通だったので、その髪を伸ばし初めるという儀式です。「袴着」は、はじめて袴を着けさせ、この日から自分で袴を着けるというけじめの儀式です。「帯解」は、ひ

病院の理念

1. 幡多けんみん病院は幡多地域における医療の中核となる病院として、地域の他の医療機関や保健・福祉・介護施設などとの連携のもとに、地域で完結できる、良質な医療の提供を目指します。
2. 地方公営企業として、地域医療をとおして地域の福祉の増進を目指しながら、企業としての経済性を発揮する運営をおこないます。

私たちの目指す医療（基本方針）

1. 正確で間違いのない医療
2. 十分に説明をする医療
3. 透明性を大切にする医療
4. 患者さんの希望を大切にする医療

「七五三」の日、着慣れない着物を着て、神社の石段を手を引かれながら歩いたことを思い出し、ついつい忘れがちになる両親や周りの人たちに感謝する気持ちや思い出しました。感謝の気持ちを忘れないことが優しさの種になり、そして、みんながほんの少し、いつも優しくできたら、いつも「ありがとう」と「笑顔」を忘れずに過ごしていけたら、色々な事が少しずつ



もを着けて着ていた着物から大人と同様に帯を結んで着るようになるという儀式です。いずれも、子どもから大人になっていくことを祝う節目の儀式です。子どもが誕生し、成長していく過程で色々な苦勞を重ねながらもそれを喜びや感謝にかえて節目に祝う。そしてその子どもが親となり繰り返していく。日本古来の風習にはすばらしいものがたくさんあります。

うまくいくような気がします。日本の伝統行事や風習は、こんなふうに、忘れがちな気持ちに想いを馳せる、そんな大切な日なのかもしれません。

救急外来工事のお知らせ

平成19年11月28日（水）～平成20年2月6日（水）の間、救急外来診察室等の工事を行います。それに伴い、右記の期間中は時間外出入口から救急患者の搬送を行うこととなります。

また、平成19年12月14日（金）～平成19年12月21日（金）の間は、救急診察室1・2、救急処置室が使用できなくなりますので、救急患者さんに対する診察・処置は2階中央処置室やICUで行います。

工事期間中はご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解と承度ください。



10月の統計

外来患者数	15,424人
新外来患者数	2,395人
紹介患者数	446人
新入院患者数	504人
退院患者数	470人
平均在院日数	16日
救急車・時間外患者数	1,265人
手術件数	215件

幡多けんみん病院における患者さんの権利

1. 患者さんは、良質な医療を平等に受ける権利をもっている。
2. 患者さんは、医療を受けるにあたり、十分な説明を受ける権利をもっている。
3. 患者さんは、プライバシーが守られることを期待する権利をもっている。
4. 患者さんは、自分の希望を伝え、医療に参加する権利をもっている。
5. 患者さんは、人間としての尊厳が守られることを期待する権利をもっている。